

大阪府に大きな被害をもたらした過去の気象事例 「昭和9年（1934年）室戸台風（9月21日）」

大阪府で甚大な災害。特に大阪市では暴風と高潮による被害が顕著。

【概況】

室戸台風は、昭和9年（1934）9月12日から13日にかけて、サイパン、グアム、ヤップ島付近の海上に弱い熱帯低気圧が発生、これが室戸台風の卵である。9月21日午前5時ごろ、高知県安芸郡奈半利町付近（室戸岬の北西24km）に上陸し、その後、徳島市の南西約15km付近を進み、淡路島を通り、午前8時ごろ大阪と神戸の間あたり（神戸市深江付近）に達した。その時の台風の中心の気圧は約954hPaと低く、大阪の最大瞬間風速は60m/s以上（※）という猛烈さであった。

また、低気圧と暴風により大阪湾には高潮が起き、大阪市の低地は海岸から4km以上の陸上まで浸水し、堺市は全市の3割、岸和田市は2割が浸水するなど、その被害は甚大であった。この台風における被害は、大阪府内では、死者1,812人、負傷者9,008人、行方不明76人、合計10,896人に達した。また、住宅及び非住宅の全壊・半壊・流出30,143戸、床上・床下浸水158,547戸に及んだ。

なかでも、学校の被害は甚大であり、大阪府内で全壊した小・中学校は22校、半壊98校、一部倒壊45校、浸水35校に及び、死亡は児童生徒676人、職員18人、負傷は児童生徒2,469人、職員153人に達した。

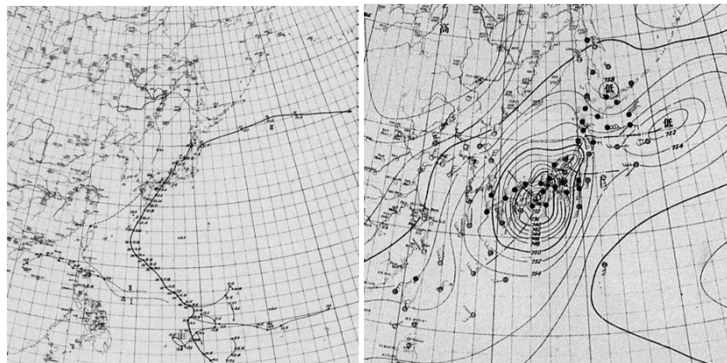
＜観測値「風速」について＞

府立大阪測候所の風力塔観測者から次の報告がある。「7時40分、風圧計早巻自記を取り付け、8時過ぎに自記風力計の故障が生じた。その後、急に風圧計のペンは60m/sを突破した。時刻は8時3分であった（風圧計は60m/sまで自記する器械であるからそれ以上は判明しない）。それからすぐに風力計の故障を見るため屋上へ向って上ろうとする瞬間、無線電信鉄塔が屋上に倒れ、そのため観測用の風力計、風圧計、風信器などが破壊。その時がちょうど8時5分であった。」

大阪で風力の最も強かったのは8時前後から8時10分ぐらいであると思われるが、その間の平均風速の実測がない。風圧計が示す瞬間風速60m/sの7割とみれば42m/sとなり、6割とみれば36m/sで、これ以上であったことは確実と考えられる。

※注：「大阪」の最大風速、最大瞬間風速の記録については、「大阪の気象百年（大阪管区気象台、昭和57年）」を参考に記載した。

○概況作成のため、参考にした資料 「大阪の気象百年（大阪管区気象台、昭和57年）」



台風経路図（室戸台風）

地上天気図（9月21日06時）

地点名	最大風速・最大瞬間風速			期間：9月21日			降水量	期間：9月21日
	最大風速		最大瞬間風速	最大瞬間風速		地点名		降水量
地点名	m/s	風向	月日	m/s	風向	月日	大阪	神戸
大阪	36 以上	南 (推定)	9/21 08:05頃	60 以上	南 (推定)	9/21 08:03頃	19.5ミリ	81.4ミリ
神戸	21.9	東南東	9/21 07:40	33	東南東	9/21 07:45	77.2ミリ	
和歌山	25.1	南	9/21 07:40	42	—	9/21 07:30		

※注：「大阪」の最大風速、最大瞬間風速の記録については、「大阪の気象百年（大阪管区気象台、昭和57年）」を参考に記載。